
そよ風吹く町

柚果

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そよ風吹く町

【Nコード】

N6012Y

【作者名】

柚果

【あらすじ】

様々な理由があり、心に深い傷を負った都会の高校生、リナ。そんなリナが【そよ風タウン】という町の町長の薦めで牧場主をすることになる――

第一話 そよ風吹く町へ

とある都会の真ん中にある小さな公園――

公園のベンチで少女――リナはぼんやりと空を眺めていた。彼女は公園の近くにある高等学校の制服を着ていて、横には大きな通学用バッグが置かれている。それにしても、彼女はなぜこのようなところにいるのだろうか、今日は学校が休校でもないし、時間も昼間で放課後でもないのに――

答えは、彼女が学校へ行かなかったからだ。病気や怪我で行けなかったのでもない。家の都合でもない。彼女自身が行きたくなかったからだ。学校にも行きたくない、家にも帰りたくなかった。だからこうしてなにもせず、ただ青い空を眺めている。

「――君、こんな昼にどうしたんだね？」

突然、誰かに声をかけられた。リナは視線を上から声の聞こえた方向、前へと移した。目の前に立っていたのは金色の髪と髭、頭に少し大きなシルクハットをかぶった大柄なメガネの男性。見るからに怪しそうなこの男性にリナは見覚えがなかった。

「今は学校はどうしたんだね？」

男はリナに言った。リナは自信のない小さな声で言った。

「……行ってません……」

「そうか、きつとなにかしらの事情があるのだな。そうだ!!」

落ち着いた話し方をしていた男は、急に何かを思いついたように大きな声をあげた。リナはおもわずビクリとする。

「君、きよっと一緒にきてくれないか。【そよ風タウン】という町まで。……ああ、申し遅れたが私はそよ風タウンの町長をやっているフェリックスというものだ。ぜひとも私の町を見てもらいたくてね。……どうかね？」

知らない人の誘いにはのってはいけないと教えられていたリナだったが、不思議なことになぜかこの男には不審な感じが一つたりとも

なかった。それに、そよ風タウンという町にとっても興味を持った。

「……はい、行ってみたいです。あの、私、リナといいます。」

リナは小さい声で答えた。

「そうか！ではリナ君、私についてきてくれ！」

嬉しそうにそう言うと言とフェリックスは大腿であるきだした。リナは遅れまいと小走りで後ろをついていった。

そよ風タウン———いったいどんな町だろう———

リナは期待に胸を膨らませた———

第一話 そよ風吹く町へ（後書き）

はじめまして！ 柚果です！

最近になって牧場物語の風バザ、はまり始めたので小説を書いてみました！

よろしくおねがいします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6012y/>

そよ風吹く町

2011年11月18日07時31分発行